

1. 人文学部

(1) 人文学部の研究目的と特徴	1-2
(2) 「研究の水準」の分析	1-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	1-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	1-7
【参考】データ分析集 指標一覧	1-8

(1) 人文学部の研究目的と特徴

1. 新潟大学人文学部は、わが国日本海側最大の都市における大規模総合大学である新潟大学において、唯一の人文系学部であり、周辺大学に比しても豊富かつ多様な人材を擁していることから、人文科学の研究拠点として学内外からの期待が大である。よって本学部は、世界水準の基礎研究を基盤としつつ、分野横断的で創造的な特徴ある先端的研究を推進し、地域社会ひいては世界規模の諸課題の解決に、人間と文化・社会の探求の側面から貢献していくことを目的とする。

これは、新潟大学の中期目標における「研究の自由を担保し、多様な基礎的研究を土台として、分野横断的・創造的な特徴ある先端的研究を推進する」という点を、人文科学分野において実現するものである。

2. 上記目的を達成するため、①人間行動研究、②テキスト論研究、③環東アジア研究、④比較メディア研究、の4つの重点研究分野を定める。これは学部構成員の研究の蓄積や強みに基づいたものであり、また③環東アジア研究が、新潟大学中期目標に「大学での実績と社会からの要請に基づいて、特徴ある最先端の研究を推進する」一例として挙げられた「アジア研究」に対応するなど、大学の立地と社会の要請に応じたものである。

3. 人文科学研究の多くは個人研究であるが、他方で学際的分野横断的かつ国際的な研究を推進するため、また互いに切磋琢磨し研究力量を向上させるためには、開かれた環境での研究交流が重要である。よって本学部では、上記4つの重点研究分野ごとに複数の研究プロジェクトを立ち上げ、全教員がそのいずれかに参加して共同研究を推進している。

4. 新潟大学が研究高度化のため全学レベルで設置した超域大学院のプロジェクトや、コア・ステーションに、人文科学分野において積極的に参画し、さらにこれらの活動を、上記3で述べた学部の研究プロジェクトと緊密に連動させ、より一層の研究高度化をめざしている。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 3401-i1-1）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 3401-i1-2）
- ・ 指標番号 11（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 3401-i1-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文学部では諸種の研究センターが存在し、研究プロジェクトに参集した共同研究グループが形成され、それらが主体となって研究会、ワークショップ、講演会を企画・実行し、相互に研鑽を重ねている。そのうち、「間主観的感性論研究センター」「地域映像アーカイブ研究センター」「〈声〉とテキスト論教育研究センター」「言語学研究・言語教育センター」「環東アジア伝統的教養共生社会教育研究センター」は、コア・ステーション（既存の学内組織にとらわれない研究グループ）として、分野の枠を超えて活発に研究を進めている（別添資料 3401-i1-4）。ほかにも「日本モンゴル新世紀プロジェクト」「ヒト認知系の総合的研究」といったテーマごとの研究プロジェクトも形成されている。これらの企画系統のもと、講演会の開催と研究者交流、論文集の発刊を契機にして研究成果の発表のアウトプットまでを支援する体制が整備されている。上記の研究グループ・研究プロジェクトの研究成果が著書・編著として 11 点出版されるに至っている。また、教育との相互交流も活発に行われ、「領域融合科目群」ではこのような成果がテキストとして用いられている、という意味で卓越した体制を実現している。 [1.1]

<必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 3401-i2-1～6）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 3401-i2-7～9）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料（人文科学系）
（別添資料 3401-i3-1）
- ・ 指標番号 41～42（データ分析集）※補助資料あり（後掲別添資料 3401-i4-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 25～40、43～46（データ分析集）
- ※補助資料あり（別添資料 3402-i4-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目A 地域連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 地域の文化館、史料館、博物館、美術館などの公共施設との共同研究については、佐渡市教育委員会との佐渡学セミナー開催、NHK文化センター、にいがた市民大学および本学の市民向けの公開講義や市民対話集会、北海道北方博物館、新潟市文化財審議委員会・文化保護審議会、群馬県文化財保護審議会、佐渡市文化的景観の保存及び整備に関する専門家会議との共同研究を通じて地域の文化政策に大きく貢献した。さらにメディア関連では、文化庁映画週間企画案の選定、新潟放送委員会などに参画し、相互の発展に寄与した。地域社会の課題に関しては、原子力発電所事故による健康と生活への影響に関する検証会議に参加協力し、ふくしま復興フォーラムおよび新潟市議会「災害対策議員連盟」とも連携して地域調査と復興への画策を支援した。また重点研究分野においては、環日本海経済研究所の評議会に参加し研究研鑽を積んだ。

地域の各種委員への参画は、第2期中期目標期間の平均は54件であったが、第3期中期目標期間に入り、2016年度49件、2017年度71件、2018年度71件、2019年度58件と推移し（資料1）、教員数の減少を考慮に入れば、むしろ増加の傾向を示していると考えられ地域連携に十分貢献しているといえる。[A. 1]

資料1 地域の各種委員への参画状況

年度	2016	2017	2018	2019	計
地域文化振興	14	25	28	21	88
地域課題解決	9	13	10	12	44
博物館・美術館・資料館連携	13	16	11	10	50
実務に関する意見・提言	7	9	12	5	33
文化振興（国際・国レベル）	5	7	7	7	26
その他	1	1	3	3	8
計	49	71	71	58	249

<選択記載項目B 国際的な連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 国際的な共同研究の推進については、南アフリカのプレトリア大学における「日本のポップカルチャーに関する研究」、ルール大学ボーフム、チュービンゲン大学との「文学之路」国際シンポジウム開催、ソウル大学における「比較言語学研究」参加、ストックホルム大学、ソウル大学との展覧会の共催、モンゴル科学アカデミー歴史考古学研究所での共同研究など活発に行われた。国際交流・国際シンポジウムの件数は、2016年度から2019年度までに24件を数える（資料2）。[B.1]

資料2 国際交流の状況

年度	2016	2017	2018	2019	計
ワークショップ、セミナー 主催・共催・開催関係者	4	7	11	2	24
発表、講演、講義	14	7	13	19	53
招待講演	5	7	4	2	18
共同研究・調査	3	5	4	7	19
その他	3	10	7	4	24
計	29	36	39	34	138

- 研究者の国際交流について特筆すべきことは、2016年7月、2018年11月と2019年4月に本学部言語学研究者が主催した国際ワークショップである。韓国・ロシアの研究者をまじえて「北東ユーラシアの言語に関する記述的・比較的分析」をテーマとする講演会・討論会がのべ8日間行われた。[B.2]

新潟大学人文学部 研究活動の状況

<選択記載項目D 学術コミュニティへの貢献>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学術コミュニティへの貢献について（資料3），従前より行われてきた「新潟哲学思想セミナー」が充実化し，2018年，2019年には以下の講師・主題による講演会が開催された。2018年7月「その後の普遍論争」（慶應義塾大学・山内志朗氏），2018年11月2日「ドゥルーズ＝ガタリと68年5月」（筑波大学・佐藤嘉幸氏，龍谷大学・廣瀬純氏），2019年1月25日「コモン・センスへの問いー近代ドイツ哲学の発展史から」（明治大学・長田蔵人氏他），2019年9月12日「倫理学における真理と誠実さーバーナード・ウィリアムズ Truth and Truthfulnessによせて」（熊本大学・佐藤岳詩氏），2019年9月13日「運とともに/運に抗してー古田徹也著『不道德的倫理学講義』を読む」（新潟大学・宮崎裕助，東京大学・古田徹也氏），2019年10月25日「情の時代のポピュリズムー情動とカリスマから考える」（山形大学・柿並良佑氏，立命館大学・山本圭氏）。心理学分野でも活発な研究者交流が行われ，2016年から2019年の4年間に13回の公開研究会・講演会が開催されている。[D.1]

資料3 学術コミュニティへの貢献

年度	2016	2017	2018	2019	計
シンポジウム・ワークショップ， 研究会主催・開催関係者	21	21	28	22	92
発表，講演	2	2	4	4	12
その他	3	4	1	0	8
計	26	27	33	26	112

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<必須記載項目1 研究業績>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

本学部は、日本海沿岸地域の地域拠点という新潟の地理的な環境をふまえた「環日本海地域研究」、人文科学の伝統を基盤とする「人間行動研究」、同じく「テキスト論研究」、および21世紀の新しい課題である「比較メディア研究」という4つの重点的な研究領域を設け、学内や国内はもとより、国際的な共同研究も推進している。また、研究成果の発信にも力を入れ、学部紀要『人文科学研究』に加え、『人文叢書』『人文選書』を刊行している。とくに優れた著作には人文科学奨励賞「阿部賞」を贈呈し、研究活動の活性化に取り組んでいる。今回の研究評価にあたっては、研究水準が高いことはもちろん、上述の学部の方針との整合性、当該学会や関連団体賞の受賞歴、専門誌でのレビューと評価、マスコミを通じた成果発信と社会貢献度などを総合的に判断して、業績の選定を行った。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
2. 教職員データ	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数	
46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数	